

●この説明書は、必ず取付けされる方へお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●このドアクローザは、室内側に取付けます。

●本説明書は、外観右吊元用で説明しています。左吊元の場合も、同じ要領で取付けてください。

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

**△注意** …取付けを誤った場合、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険または物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

**△注意**

●ドアクローザの落下・故障の原因になりますので、下記事項をお守りください。

・各種取付けねじは、3.0N·m以上のトルクで必ず締付けてください。インパクトドライバーなどトルク調節が出来ないドライバーは使用しないでください。

・各種取付けねじは、付属のねじを所定個所に使用してください。

・固着剤付きのねじは、2度締めしたり、水に触れたものは使用しないでください。

●各速度調整ねじは、左へ1回転以上回転させないでください。ねじをゆるめすぎるとドアが急激に閉まり、思わぬケガをするおそれがあります。

■部品一覧表

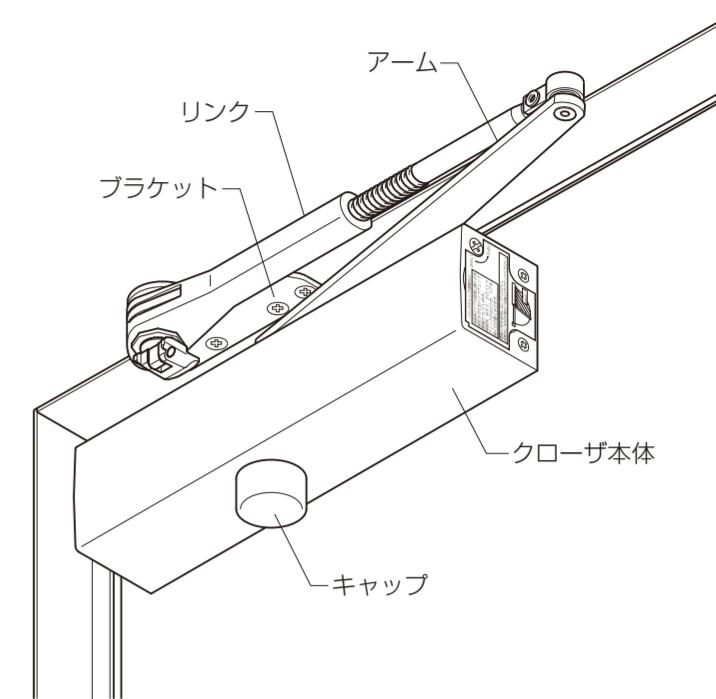
本体	アーム	本体ブラケット	ブラケットリンク	キャップ	アーム止めねじ

■ねじ一覧表

①*	or	②*	③	④
	or			

\*①と②は商品によって使い分けます。

■各部名称



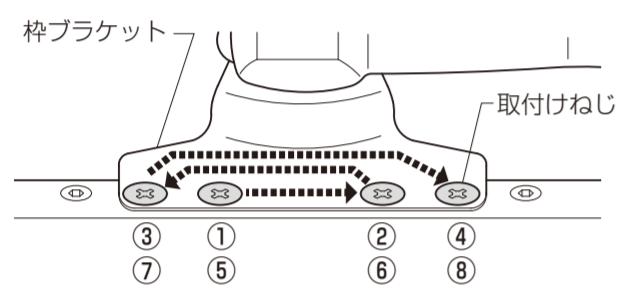
■取付け順序

●お願い

※ブラケットの固定は下図の手順でねじを締付けてください。

1. ①～④の順序でねじを固定する
2. ⑤～⑧の順序で増し締めを行う
3. 最後にねじの緩み、ブラケットの浮きがないかを確認する

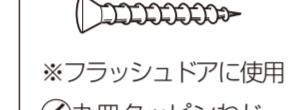
枠ブラケット取付け



■1本体ブラケットの取付け

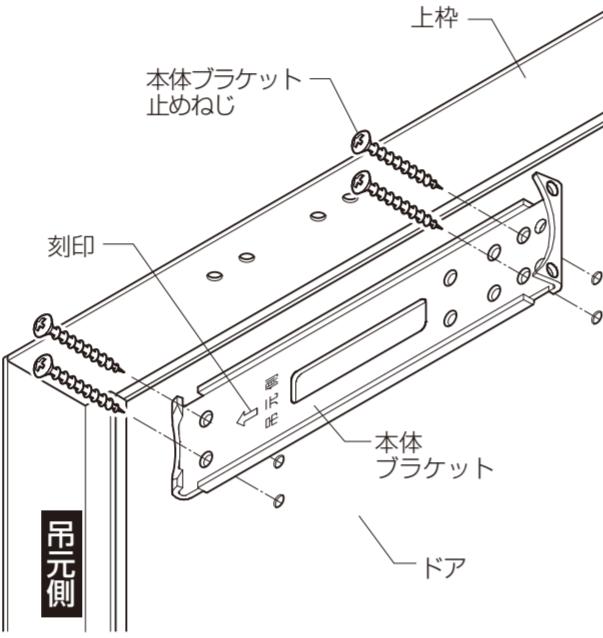
●本体ブラケットの刻印(△)を吊元側に向け、ドアに取付けます。

■本体ブラケット止めねじ



※フラッシュドアに使用  
①丸皿タッピングねじ  
M5×25

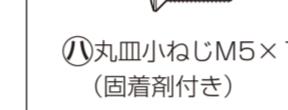
※形材ドアに使用  
②丸皿小ねじ M5×12  
(固着剤付き)



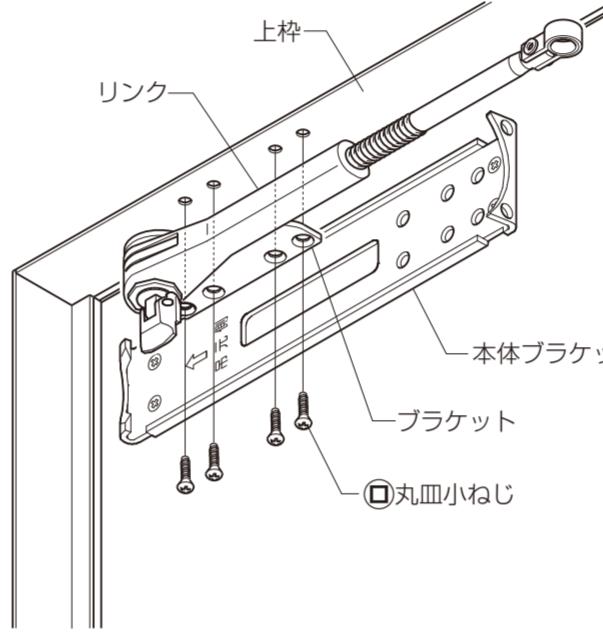
■2ブラケットの取付け

●ブラケットを上枠に取付けます。

■ブラケット止めねじ



①丸皿小ねじ M5×16  
(固着剤付き)

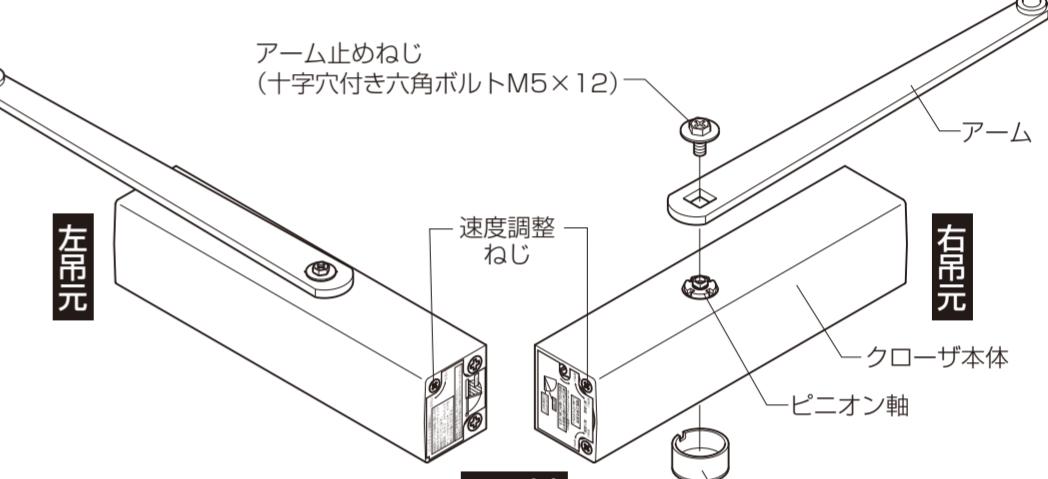


■3アームの取付け

①クローザ本体の速度調整ねじを吊元側に向けます。  
②ビニオン軸にアームを下図の向きでめ、アーム止めねじをドライバーまたは8mmスパナを使用して締付けます。  
③キャップを下から取付けます。

●お願い

※アームはめ込み時、ハンマーなどでたたかないでください。たたくと損傷や油もれの原因になります。  
※ビニオン軸とアームのはめ込みが固い場合は、アーム止めねじを締込んでアームをめ込んでください。  
※アーム止めねじの締付けがゆるいと、アームが外れ故障の原因になります。



**△注意**

●本体ブラケット止めねじは必ず締付けてください。

本体ブラケット止めねじの締付けがゆるいと、本体がぐらつき落下・故障の原因になります。

**△注意**

●ブラケット止めねじは必ず締付けてください。

ブラケット止めねじの締付けがゆるいと、ブラケットリンクがぐらつき、故障の原因になります。

■4クローザ本体の取付け

①クローザ本体の速度調整ねじを吊元側に向けます。  
②クローザ本体を右図のようにスライドさせて、本体ブラケットにはめ合わせます。  
③戸先側から固定します。

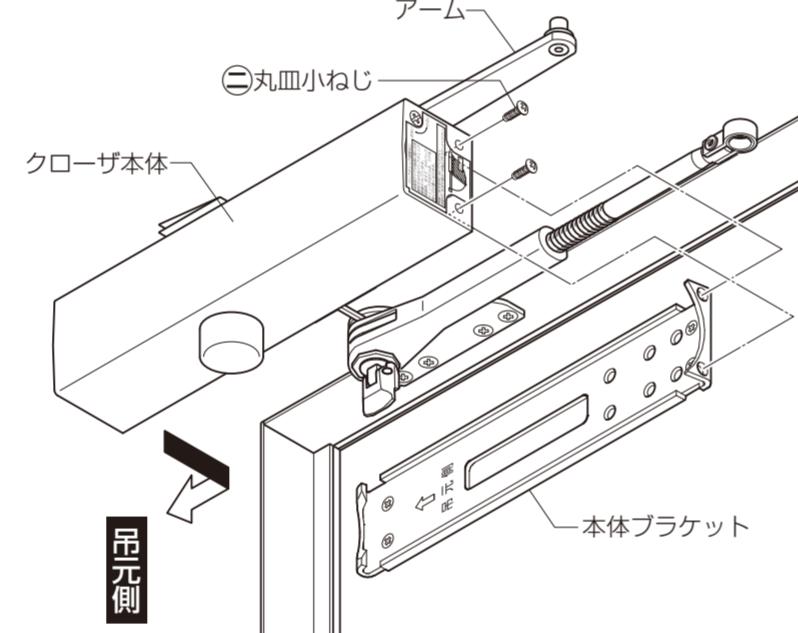
**△注意**

●本体固定ねじは必ず締付けてください。本体固定ねじの締付けがゆるいと、本体がぐらつき落下・故障の原因になります。

■本体固定ねじ

固着剤

②丸皿小ねじ M5×12  
(固着剤付き)

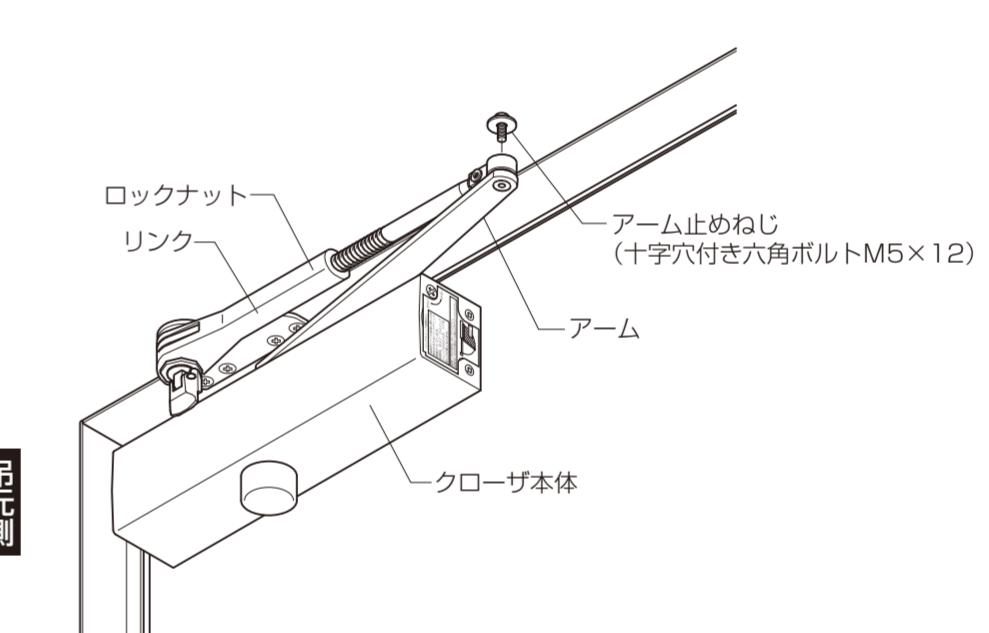


■5アームの連結

●リンク先端の穴にアーム先端のピンを差込み、アーム止めねじをドライバーまたは8mmスパナを使用して締付けます。

●お願い

※アーム止めねじは必ず締付けてください。  
アーム止めねじの締付けがゆるいと、アームの連結が外れ故障の原因になります。



■ストップ装置の設定

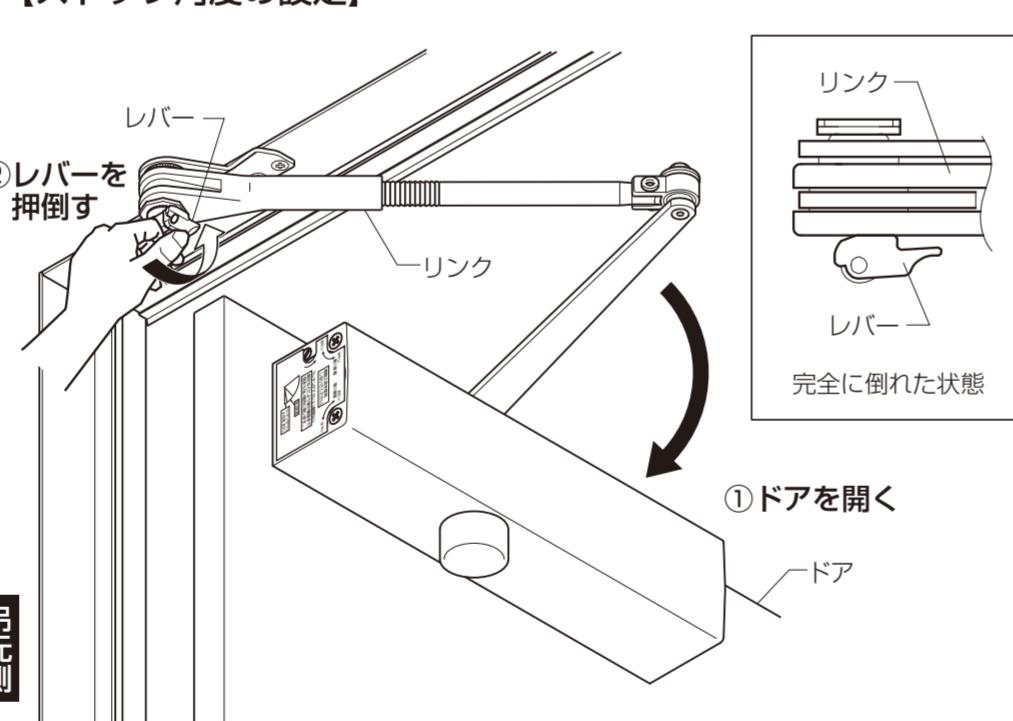
■1ストップ角度の設定

①ドアをストップさせたい角度まで開いてください。  
②開いた位置でレバーを手で完全に押倒してください。  
レバーが完全に押倒せない場合はドアを前後にゆりながら押倒してください。

●お願い

※レバーを倒すとき、ハンマーなどでたたかないでください。たたくとストップ装置の故障の原因になります。

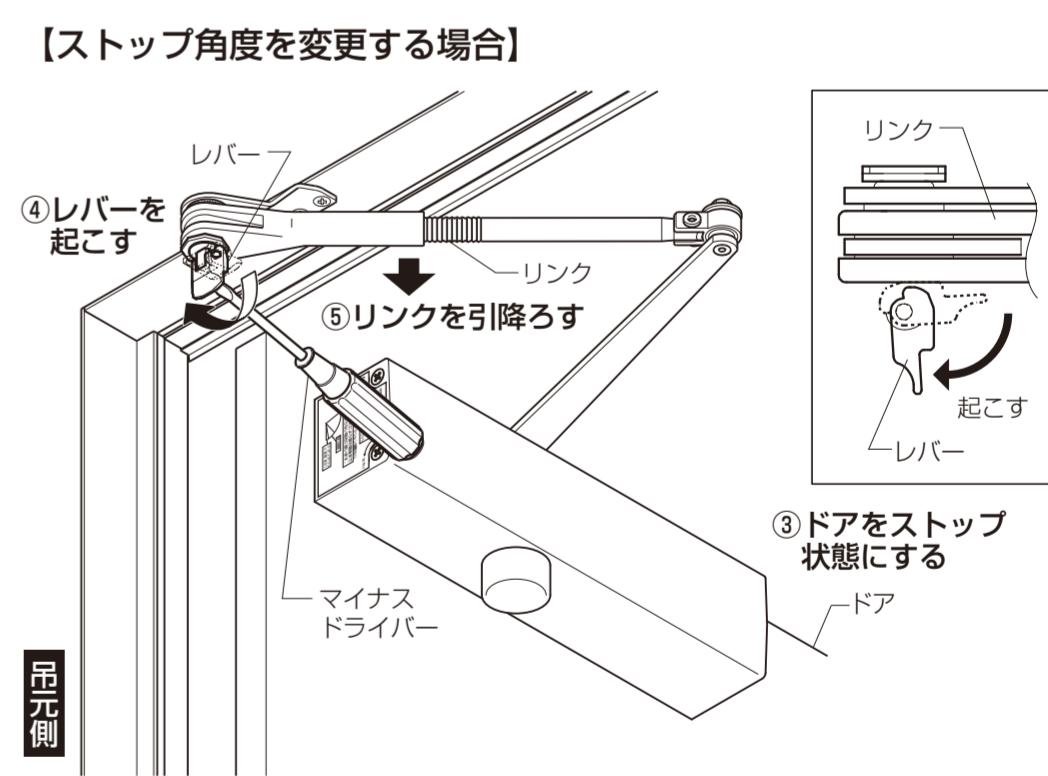
【ストップ角度の設定】



■2ストップ角度を変更(再設定)する場合

③ドアを開きストップ状態にしてください。  
④手またはマイナスドライバーでレバーを起こしてください。  
⑤ドアを開く方向に押しながら、リンクの下部をいっぱいに引降ろすとストップ機構が解除され設定前の状態に戻ります。  
⑥再度手順①～②にしたがってストップ角度の設定を行ってください。

【ストップ角度を変更する場合】



■ドア(扉)閉じ速度の調整

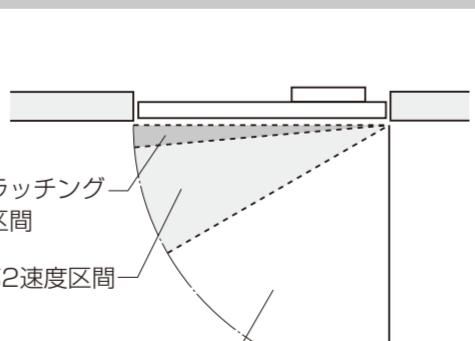
■1閉じ速度の調整

①閉じ速度は、吊元側側面にある第1速度区間および第2速度区間、それぞれ個別の調整ねじで行います。  
②速度調整ねじを回転させます。適正速度は、ドアの閉じ始めから閉じ終わるまで5～8秒位です。

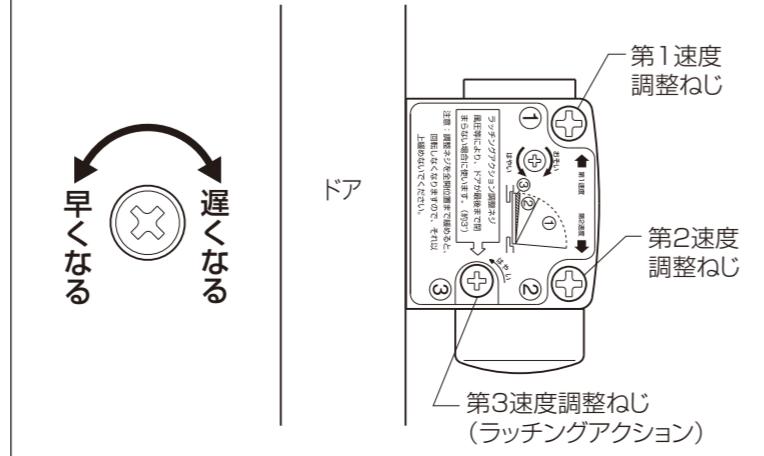
●お願い

※調整ねじは、電動工具を使用して回転させないでください。調整ねじが破損するおそれがあります。  
※調整ねじは、遅くなる方から早くなる方へ調整してください。

※調整ねじは、左へ1回転以上回転させないでください。油もれを起こし、正常に機能しなくなるおそれがあります。



■速度調整ねじ



■バックチェック強さの調整

①強風などでドアが急激に閉くのを緩和するため、バックチェック機構が付いています。  
開扉時、約70°からバックチェック機能がはたらき、ドアを開くのが重くなります。

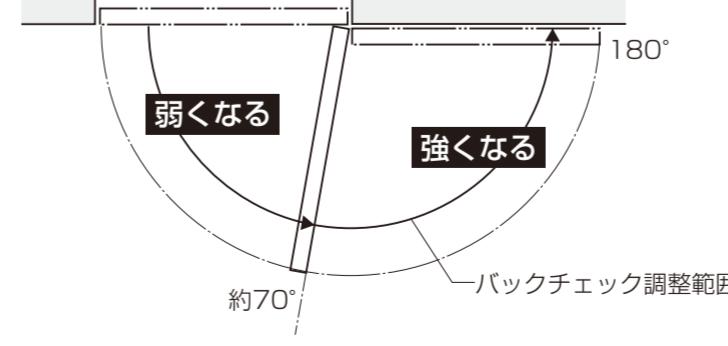
②吊元側と反対側の側面にある調整ねじを、回転させて調整してください。右に回すとドアを開ける力が重くなります。左に回すと弱くなります。

●お願い

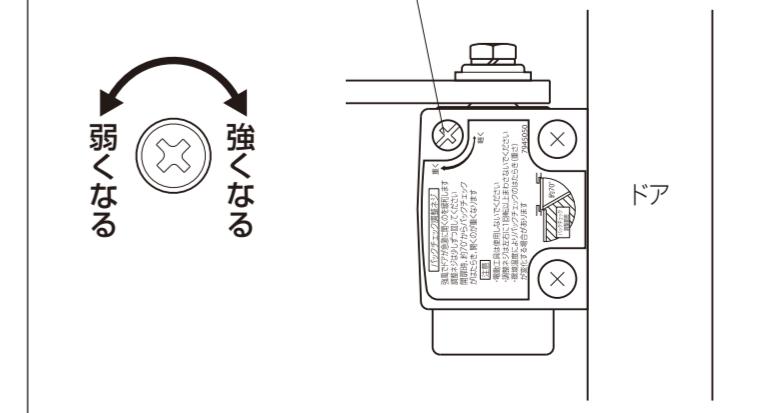
※バックチェック調整ねじは、電動工具を使用して回転させないでください。バックチェック調整ねじが破損するおそれがあります。

※バックチェック調整ねじは、左右に1回転以上回転させないでください。  
強くなる方向に1回転以上回すとバックチェックを繰り返し使用すると、ドア本体・枠に力が加わり製品に変形がおきる場合があります。

弱くなる方向に1回転以上回すと油モレを起し、正常に機能しなくなるおそれがあります。



バックチェック速度調整ねじ



**△注意**

●各速度調整ねじは、左へ1回転以上回転させないでください。ねじをゆるめすぎるとドアが急激に閉まり、思わぬケガをするおそれがあります。